



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Sustaining agricultural system in Bangladesh : a case study on villages along the Ganges River [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	Momotaz
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第14575号
Issue Date	2021-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/81459
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Momotaz_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学） 氏名： MOMOTAZ

	主査	准教授	仁平	尊明
審査委員	副査	教授	橋本	雄一
	副査	准教授	伍	嘉誠

学位論文題名

Sustaining agricultural system in Bangladesh: a case study on villages along the Ganges River

（バングラデシュにおける持続的農業システム ―ガンジス川流域における
農村の事例研究―）

・当該研究領域における本論文の研究成果

本論文は、ガンジス川の下流域を対象として、熱帯モンスーン気候下における農業の実態と開発の課題を、農業地理学的な観点で解明したものである。その主な成果は、地理情報システムを使用した空間分析、および聞き取り調査による一次資料の収集と分析の二点にまとめられる。

まず、農産物の空間分布に関して、これまで熱帯アジアを代表する米などの作物については、地理学ばかりでなく、地域研究や経済学などの分野でも多くの研究が蓄積されてきた。しかし、いずれもデータや技術面での制約があったため、詳細な地図の分析は行われていなかった。本論文では、冬イネや春イネなど、種類ごとのオリジナルの地図が作られたことが一つの成果である。また、これまでの農業地理学では、農産物の分布の差異を、土壌や気候などの自然環境や、農家の規模や市場との距離などの人文条件などから説明してきた。本論文では、さらに洪水や侵食などの自然災害と関連付けて、農産物の分布の差異を説明したことも評価できる。このような地図による分析の結果は、すでに査読付きの国際誌（h 指標付き）で発表されており、研究成果の波及効果も期待できる。

次に、聞き取り調査では、ガンジス川とブラマプトラ川の合流付近の氾濫原を、研究の対象としている。そこは道路網の整備が送れている地区も多く、季節によっては船で移動しなければならないなど、同国の研究者でも、フィールドワークが難しい地域である。筆者は、その地域で多数の農家のデータを集めるために、出身大学や知人の人脈など、様々な工夫をしてきた。そして、多大な時間をかけて、貴重なデータを得ることに成功した。そうして集めた一次データの資料性の高さに加えて、生産関数や費用便益分析などを行うことにより、地域農業の発展には機械化が必要であることを、客観的に分析することに努めた。それらの結果は、すでに論文としてまとめられており、国際誌に投稿中である。

・学位授与に関する委員会の所見

本論文の審査委員会は、上記の諸点において、バングラデシュの農村に関して、人文地理学的立場から新たな知見を得たことについて一定の成果を評価した。また、口頭試問においても、申請者は、審査委員からの質問におおむね適切に回答した。その一方で、審査委員会では、この論文に残された問題点について、次のような3点を指摘した。

（１）全体の流れについて

各章の分析は興味深いものであるが、章と章とを繋げる説明が不十分であるため、論文全体がまとまりに欠けているように思われる。国の自然環境、事例農村の機械化、持続的農業の推進などの関連性を説明し、各章をつなげるような議論が必要である。また、気候変動や災害に触れた箇所についても、それらが後の分析と、どのように関係するのか、もっと詳しく説明する必要がある。

（２）地図やグラフの作成技術について

自然条件を示した地図の中には、複雑に描かれすぎていて、凡例を読み取るのが難しい箇所がある。今後、学術論文や学術書として発表していくためには、地図に含めるべきデータを選別して、もっとシンプルなものに改良していく必要がある。また、時間の制約だったかもしれないが、エクセルでそのまま出したようなグラフが掲載されている箇所がある。そのようなグラフも、学術論文として投稿できるような品質に改良する必要がある。

（３）結論と提言について

最後の提言部分は、一般論的・理想論的にすぎないものが含まれている。国策とあわせて持続的農業について議論したり、もっと自分が見つけたものに基づいて議論をすることで、より実践的な結論が得られると思われる。また、機械化が進むと収益が上がるのは、ある意味であたりまえである。農業をどの程度まで機械化すべきかという議論も必要である。農業政策や地域特性をあわせ、独自の議論を行ってほしいところである。

以上のような問題点もあるが、審査委員会は、それらが本論文の成果を根本的に損なうものではないことを認めた。研究課題の新規性に伴うそれらの問題点は、著者がこの地域を対象とする研究をさらに進め、学術論文として発表していく過程で改善されうるものであると考えられる。また、英文についても、すべての章で業者によるネイティブチェックが終了している。

以上のことを総合的に評価し、本委員会は全員一致して、本論文の著者 MOMOTAZ（モモタス）氏に博士（文学）の学位を授与することは妥当であるとの結論に達した。